

令和6年度 認知症施策の取組と実績について

令和6年12月末実績

【認知症施策の位置づけ】

市：第9期佐倉市高齢者福祉・介護計画（令和6年～令和8年度）の重点施策

(1) 認知症の理解を深めるための普及啓発

事業	令和6年度の主な取組と実績
認知症サポーターの養成 認知症の人と関わることが多い小売業・金融機関・公共交通機関等の従業員、こども、学生に対する養成講座の拡大に努めます。	・一般市民向けの他、小売業・金融機関・公共交通機関等の従業員、小・中学校等に対する養成講座を開催 ・認知症サポーター養成講座の開催状況については「別紙」参照
認知症の人本人からの発信支援 地域で暮らす認知症の人本人からの発信の機会が増えるよう、普及啓発に取り組みます。社会の理解を深め、地域の人が認知症に関する正しい知識と理解を持って、認知症があってもなくても同じ社会の一員として地域をともにつくりたいという、支援体制づくりや認知症の理解の促進に努めます。	・認知症の人本人の発信の機会と、当事者同士で話し合う場をつくるための「合同オレンジカフェ」を開催。当事者グループと家族グループに分かれ、「いま好きなこと」や「介護上の悩み」などを話し合った。 参加者数 当事者6人、家族6人、チームオレンジ5人 専門職によるカフェ参加者への相談支援：4件 ・アルツハイマー月間にあわせ、認知症の人の『本人発信支援』の一環として、各地域包括支援センターに配置されている認知症地域支援推進員が主体となり、「希望の木、花」をテーマとしたポスターを圏域ごとに作成。大きな木の枝や花畑を描いたポスターに、認知症の本人、家族、地域住民などが、各自の希望、やってみたいことなどを自由に書いた葉や花を貼り、圏域内の公共施設に掲示
広報・リーフレット等による認知症の理解促進 毎年9月21日の認知症の日（世界アルツハイマーデー）を中心に、認知症に関するイベントや講座、相談窓口等の普及啓発に係る取り組みを行い、理解の促進を図ります。	・9/20～23の4日間、ふるさと広場の風車をオレンジ色にライトアップ ・イオンユーカリが丘店内のデジタルサイネージにてアルツハイマー月間のポスターを掲示 ・京成志津・ユーカリが丘・臼井・佐倉・大佐倉駅構内、JR佐倉駅構内、市役所社会福祉センター、志津図書館、南図書館、夢咲くら館、千代田・染井野ふれあいセンター、ふるさと広場の売店において、認知症の情報コーナーを設置し、「希望の木・花」のほか啓発ポスターやリーフレットを展示・配架

認知症地域支援・ケア向上事業推進補助金の交付 認知症の人と家族に対する支援活動または認知症の人の社会参加支援活動を行う団体に対し補助金を交付することにより活動を支援します。	・2団体に補助金を交付 対象となった活動内容 ① ボッチャ大会 (主催：社会福祉法人自州会) ② VR体験、認知症マップ作成等啓発イベント (主催：ウエルシア薬局) ※2月開催予定
---	---

(2) 予防

事業	令和6年度の主な取組と実績
脳とからだの元気力測定の実施 早期から認知症の症状や発症リスクについての知識を学び、自身の認知機能を把握することで、生活習慣の改善、社会参加、適切な医療受診などへの主体的な取り組みを促進します。	・オンラインデジタルツール「のう KNOW」を使用し、対象者がタブレット端末（パソコン、スマホでも可）を操作することにより、脳の健康度を測定。 反応速度や正答率から、脳の健康度（脳年齢、集中力スコア、記憶力スコア）を測定する。スマホやタブレットを用いて自宅での測定も可能。 ・実施者 延 167 人 （会場 144 人、自宅等 23 人） 性別 男性 55 人 女性 112 人 平均年齢 75.4 歳 ・測定結果 平均脳年齢 76.1 歳 ・支援 結果に応じ、物忘れ相談、介護予防教室、再測定などを勧奨している。

(3) 医療・ケア・介護サービス・介護者への支援

事業	令和6年度の主な取組と実績
認知症初期集中支援チームによる支援 認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族への訪問、観察、評価、対象者に適切な医療・介護サービスに繋ぐ初期の支援を実施します。	・初期集中支援新規対象者 13 人 ・訪問件数、チーム員会議の件数と処遇については「資料2」参照 ・認知症初期集中支援チーム活動の理解を深めるための事例検討会を実施 1 回

認知症カフェ（オレンジカフェ）の開設 認知症の方と家族、地域住民、専門職が集う「認知症カフェ」を開設し、介護者間の交流と、専門職による相談体制の充実を図ります。	・市内6か所に開設（地域包括支援センター委託5か所、介護事業所1か所） - 開催回数：45回 - 参加延人数：936人 ・参加者内訳（包括実施分のみ） 当事者延243人、家族延215人、一般延175人、ボランティア303人） ・専門職によるカフェ参加者への相談支援：46件
物忘れ相談の実施 物忘れや認知症についての不安があるかた及びその家族を対象に、専門医等による物忘れ相談を実施し、認知症やMCIの早期発見・早期受診や不安の解消等の支援を行います。	・実施回数：9回（毎月1回） ・相談者数：29件 ・結果 受診勧奨：12件、経過観察：12件
多職種連携研修の開催 多職種で認知症の方と家族を支えるためのネットワークづくりを推進するための研修を開催し、認知症ケアの向上を図ります。	・認知症の当事者と家族を支える多職種が連携し、認知症ケアの向上を図るための研修を、令和7年度実施に向け検討中
家族介護支援事業（介護者教室・介護者のつどい） 介護家族の身体的・精神的負担の軽減を図るため、基本的な介護に関する学習や実習と介護相談、介護者自身の健康管理、情報交換等を通じた支援を行います。	・家族介護支援事業（介護者教室・介護者のつどい） - 教室 開催回数：20回 - 参加延人数：408人 - つどい 開催回数：30回 - 参加延人数：188人
認知症の「共生」と社会参加活動の推進 認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる「共生」社会の構築を目指します。また、認知症の人のつながりを支援し、家族等の介護負担の軽減を図りながら、認知症の人が地域において役割を担い、生きがいをもった生活を送れるよう、支援体制づくりを進め	・認知症の人が、尊厳と希望を持って生きる「共生」社会の構築に向けた普及啓発 （再掲）認知症サポーター養成講座の実施、認知症高齢者声かけ訓練の実施 ・家族等の介護負担の軽減、認知症の人の役割・生きがいを持てる支援体制づくり （再掲）オレンジカフェの実施、チームオレンジ活動推進、認知症地域支援・ケア向上事業推進補助金の交付 ・「希望をかなえるヘルプカード」のリーフレットの配架、オレンジカフェでの試行

ます。	
認知症の人の意思決定に基づく支援体制の整備 認知症の人の意向を尊重し、その尊厳を保持しつつ、切れ目なく保健医療サービス、福祉サービス等が提供されるよう、支援体制づくりを進めます。	・ 認知症の人の意向を尊重しながら、切れ目なく保健医療福祉サービス等が提供される支援体制づくりの推進 ・ 権利擁護支援が必要な方の発見し支援へつなぎ、意思決定支援や身上保護を重視した後見活動を支援する「地域連携ネットワーク」の整備・運営（「成年後見支援センター」を運営する社会福祉協議会へ委託）
若年性認知症の人への支援、社会参加支援 若年性認知症についての周知と理解の促進、相談機関や医療へのコネクトを図りながら、若年性認知症の人の就労等に関する情報等を提供し、孤立させない支援体制づくりを推進します。	・ 市ホームページや公共施設窓口において、若年性認知症についての相談機関の周知（リーフレットの配架） ・ 随時相談を受け付けた際は千葉県若年性認知症専用相談窓口を紹介

（４）認知症バリアフリー、若年性認知症の人の支援、社会参加支援

事業	令和6年度の主な取組と実績									
認知症高齢者声かけ訓練の実施 認知症の高齢者等が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域の見守り支援体制を整えるため、地域の公園や集会所等において、道に迷っている認知症高齢者への声かけや各所への連絡、連携の実地訓練を開催します。	・ 開催回数：3回（3地域） - 参加人数：73名 <table><tr><td>西志津地区社会福祉協議会</td><td>参加人数</td><td>24人</td></tr><tr><td>内郷小学校</td><td>参加人数</td><td>31人</td></tr><tr><td>井野小学校区まちづくり協議会</td><td>参加人数</td><td>18人</td></tr></table>	西志津地区社会福祉協議会	参加人数	24人	内郷小学校	参加人数	31人	井野小学校区まちづくり協議会	参加人数	18人
西志津地区社会福祉協議会	参加人数	24人								
内郷小学校	参加人数	31人								
井野小学校区まちづくり協議会	参加人数	18人								
チームオレンジ活動推進 認知症サポーター等を認知症の人やその家族のニーズにあった支援につなげる仕組み（チームオレンジ）を整備し、地域における支援ニーズの把握や認知症の理解促進、本人発信支援等についての活動を推進します。	・ 認知症サポーターステップアップ講座の開催：1回（2日間） ※ステップアップ講座を修了した者をチームオレンジメンバーとして登録 ・ チームオレンジ登録者数 67人 ・ チームオレンジ設置数 2か所 ・ 活動と活動支援の詳細は「別紙」参照									

高齢者の虐待防止ネットワークの活用 高齢者虐待の防止と早期発見・早期対応・再発防止を図るため、市内の関係機関・団体等が連携を強化するために設置している「佐倉市高齢者虐待防止ネットワーク」を活用した関係機関によるケース検討会議の開催や、専門機関等と連携した様々な支援・対応を進めます。	・地域における見守り意識の高揚を図り、関係機関と連携した様々な支援・対応を実施 ・高齢者虐待通報件数 66 件 ・高齢者虐待認定件数 31 件 (うち分離件数 11 件、うち 4 件は対応開始時分離済)
2市1町SOSネットワーク 佐倉市・八街市・酒々井町・警察署・消防組合・防犯組合連合会による連絡協議会を組織し、認知症高齢者等が行方不明になった場合に、FAXや防災無線等を利用して捜索への協力を呼びかけます。また、GPSを利用した位置情報検索システムの端末購入費用の助成や、行方不明となるおそれのある高齢者等に対し、身元確認のできる「SOSステッカー」の交付を行います。	・捜索回数 16 回 (うち佐倉市民 10 件) ・GPS 端末初期費用助成 1 件 (うち佐倉市民 0 件) ・SOS ステッカー交付(市内) 31 人 (交付延べ人数 394 人)
成年後見制度利用促進 成年後見制度に関する相談対応、普及啓発活動を行います。 成年後見制度を利用するための費用の一部を助成します。 成年後見制度(市長申し立て支援) 成年後見制度の利用が必要にも関わらず、親族による申立が期待できない高齢者について、市長による成年後見等開始審判請求を行います。	・佐倉市成年後見制度利用促進基本計画に基づき、中核機関(佐倉市成年後見支援センター)が主軸となり、制度利用に係る相談支援、普及啓発活動、後見人の支援等を実施 ・成年後見支援センター相談総件数 271 件 ・成年後見等開始審判請求費用助成件数 0 件 ・成年後見人等報酬費用助成件数 高齢者 23 件 成年後見等開始審判請求数 高齢者 8 件(市長申立数)

【資料1 別紙】

認知症サポーターの養成・活動支援について

1 認知症サポーター養成の状況（令和6年4月～令和6年12月）

講座回数	23 回					
受講者数	1,194 人					
性別	男性	571 人	女性	623 人		
対象区分	小中学校・高校・ 学童保育所・ 児童ボランティア	943 人	自治会・地区社協・ まちづくり協議会	57 人		
	介護事業所 （包括含む）	18 人	民間事業所	3 人	ボランティア・ 公民館事業の 受講生	0 人
	薬局・薬剤師会	8 人	市職員	38 人	一般市民	127 人

※参考 令和5年度（3月末）829人、令和4年度末618人、令和元年度1,616人

令和6年12月末までの受講者数（累計） 計 25,145 人

2 チームオレンジ活動

【令和6年度のチームオレンジ活動支援（12月末時点）】

・地域包括支援センターに配置される認知症地域支援推進員が中心となり、チームオレンジメンバーを対象に交流会・情報交換会、カフェ活動やイベントの企画・準備等の打合せ等を随時実施。

開催回数：30回 チームオレンジメンバー参加延べ数：69名

（主な活動内容）

- ・認知症サポーター養成講座の講師（キャラバンメイト有資格者）
- ・オレンジカフェのお手伝い（参加のお誘い、参加中の声かけ、見守り、付き添い、作業の補助等）
- ・認知症の人と家族、地域住民の方が一緒に参加できるイベントの企画・準備・当日運営のお手伝い（令和6年度はボッチャ大会の企画・運営、審判等）

- ・ 認知症高齢者声かけ訓練にスタッフとして参加（道に迷って声をかけられる役の方の付き添い、補助、一般参加者の声かけに対する助言など）
- ・ 9月の世界アルツハイマー月間に合わせ、市役所や図書館、駅、公園の売店などに設置した啓発コーナーに飾るため、認知症の人や家族、地域住民からのメッセージを記載した掲示物の企画・作成
- ・ 京成志津駅南口の花壇整備
- ・ 認知症サポーター養成講座の啓発グッズ作成 など